

平成 30 年度第 3 回資産運用委員会議事要旨

【開催日時】平成 30 年 6 月 18 日（金）13：30～16：30

【開催場所】勤労者退職金共済機構 19 階役員会議室

【出席者】村上委員長、徳島委員長代理、稲垣委員、小枝委員、中島委員

※資産運用委員会規程に基づき、3. の議題のみ委員長が機構の運用業務に関するコンサルタントの陪席を要請。

【議事要旨】

1. 議事要旨及び議事録の確認について

(1) 平成 29 年度第 6 回資産運用委員会議事要旨

平成 29 年度第 6 回資産運用委員会議事要旨（案）について、委員による最終確認が行われ、了承された。

☞ 平成 29 年度第 6 回資産運用委員会議事要旨については[ここ](#)をご覧ください。

(2) 平成 29 年度第 7 回資産運用委員会議事録

事務局より、平成 29 年度第 7 回資産運用委員会議事録について、委員による最終確認が完了したため 7 年後に公表する旨の報告が行われた。

(3) 平成 30 年度第 1 回資産運用委員会議事録

事務局より平成 30 年度第 1 回資産運用委員会議事録（案）が提示され、7 月上旬を目処に、各資産運用委員から修正の要否を事務局に連絡することが了承された。

2. 平成 29 年度資産運用結果に対する評価報告書（案）について

事務局より、平成 30 年度第 2 回資産運用委員会において審議が行われた「平成 29 年度資産運用結果に対する報告書」（以下、「評価報告書」という。）の修正案について説明が行われた。審議の結果、若干の修正を行った上で、最終版として厚生労働省に提出する事が了承された。

事務局からの説明の概要は以下のとおり。

- ・運用実績に関する記述では、予定運用利回りではなく、財務状態に直接関わる採算利回りとの比較において評価する形としている。これは、制度間で、コスト構造が異なることに配慮したものであるが、前回の本委員会において分かりづらいつらいつらのご指摘を頂いたので、予定運用利回りと採算利回りの関係について、注記を追加した。
- ・今後の予定としては、本日の審議内容を反映した再修正版を速やかに作成し、全委員からの了承が得られた段階で、最終版として、7 月 25 日に予定されている有識者会議へ、当機構の業績実績評価のための参考資料として提出する。

<主な質問、意見等>

（委員） 金銭信託の運用実績について、中退共のみ超過収益率の合計欄に資産全体と

しての超過収益率ではなく、その一部である個別資産効果の寄与分が記載されている。こうした扱いとしている理由如何。

(事務局) この表の趣旨は、運用委託先のパフォーマンス評価である。この趣旨に鑑みて、資産クラス別特化型委託を行っている中退共については、運用委託先の責めに帰し得る個別資産効果のみを掲載することとしている。そうした趣旨・経緯を知らないと却って分かり難いとのこと指摘は理解できるので、再検討したい。

(委員) 本報告書は、資産運用結果のみを取り扱っている訳では無いので、タイトルの「資産運用結果に対する報告書」は再考の余地があるのではないか。今後の検討課題として頂きたい。

3. マネジャー・ストラクチャーの実施状況の報告と検討

事務局より、マネジャー・ストラクチャーの実施状況について、以下の3点について報告・説明があり、それぞれ審議が行われ、国内債券アクティブ運用受託機関選定の一次選考結果については了承され、二次プロセスへ進むこととなった。

(1) 国内債券アクティブ運用受託機関選定の一次選考結果

(2) 外国債券アクティブ運用受託機関選定における要検討事項

(3) 国内株式アクティブ運用委託先の選考についての要検討項目

注) 上記に関する審議内容については、その公表が実施中の選考に影響を与える可能性に配慮し、全ての資産クラスについての選考が終了した後、選考過程、選考結果の概要等と合せて、総括報告書の形で公表することを予定

(了)